資料３-別添資料③

令和２年度　適応指導教室「わかば教室」の運営状況

青少年育成課　教育相談センター

１　在籍者数（長期の体験入級生も含む）

（単位：人）

校種	小学校							中学校				総合計
学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	合計	１年	２年	３年	合計	
男子	0	0	1	0	1	3	5	5	6	8	19	24
女子	0	1	3	0	1	2	7	4	11	4	19	26
合計	0	1	4	0	2	5	12	9	17	12	38	50

在籍児童生徒学校数　小学校９校　中学校 12 校　計 21 校　（12 月末現在）

２　学校復帰

小学生０名　中学生 10 名

３　進路状況　３年生 12 名は全員進路先が決定している

４　成果と課題

（１）情緒の安定を図るためのカウンセリング的支援

個々の状態に応じて、安心して過ごせる居場所づくりのため、大人数、少人数など自由に選べる教室環境を整え、人との適切な距離感を図るための指導を行った。心理相談員との定期的な面接やエンカウンターを行い、知り得た情報をもとに児童生徒へのかかわり方を考えることができた。

（２）基本的生活習慣の改善、自律的な生活態度の育成、学習意欲・気力・体力の充実

１日の活動計画と振り返りを書かせることで、自身の生活のフィードバックが自主的にできるように支援した。また、振り返りにコメントを添えることで、児童生徒の学習意欲や気力を喚起することができた。

スポーツ活動に継続して取り組むことで、運動習慣を確立し、目標達成の意欲を向上させることができた。

（３）主体性を尊重した体験活動や学習、自立心の育成

集団で行うスポーツ活動や製作活動など児童生徒が自主性をもって取り組む活動を推進することにより、自己有用感や自己表現力、責任感等を高めることができた。

（４）協調性、社会性、コミュニケーション能力の向上

児童生徒同士の関わりが生まれるように、共同作業や体験活動を取り入れ、仲間意識を高める支援を行った。スポーツ活動では、仲間を励まし合い、一緒にスポーツを楽しもうとする姿が見受けられた。休憩時間では、仲間と共に和気あいあいとした雰囲気で、お互いのことを気遣いながら、カードゲーム等を楽しむことができた。

（５）保護者、学校等との連携、組織的な支援

本人の本学級での様子や、心理相談員との面談内容等を学校へ報告し、今後の支援の在り方について情報共有しながら学校復帰を目指した。学校へ復帰する児童生徒の数は伸び悩んでいるが、学校の協力を得ながら、定期テストのみ学校で受けることができたり、放課後登校できるようになったりする児童生徒が増えてきた。また、定期テストを本教室で受けることができた生徒が増加したことは成果と言える。さらに、活動状況を記した「わかばだより」を積極的に発行し、学校や家庭と情報共有することができた。

（６）学校復帰までの段階的・計画的な支援

学校で使用している教材や、自分が選んだ教材に取り組む時間を確保した。朝の会では、新聞記事を用いた時事問題を取り上げ、お互いの意見を交流するとともに、社会に目を向けるきっかけ作りに取り組んだ。また、共同作業や体験活動、エンカウンター等、社会的スキルの獲得を目指して支援を続けた。今後も、短期的及び長期的な個別支援計画の作成と見直しを定期的に行い、個々の状態に応じた不登校状態の改善に向けて支援していきたい。